

市政に対する 一般質問

一般質問は、3月19日・20日・22日の3日間にわたり14人の議員が活発な論戦を展開しました。質問・答弁とも質問者が要約しました。

子ども読書活動推進計画 実効性ある計画策定は可能か

田口 初江

(問) 次代を担う心豊かな子どもたちを育成するため、読書の楽しさや大切さを知り、自ら進んで本を読むような環境づくりを通じて、生涯にわたる読書活動が形成されるようにするために、計画を策定すると示されている。すなわち、市の役割として、市立図書館や学校図書館を充実し、専任の専門職員を配置し、充実した資料費を保障することではないのか。
(答) 教育部長 そのようにとらえている。
(問) 厳しい財政状況の下、図書館関連予算も削減され続けている。ソフト・ハード両面で充実

させるための財源が保障されないのであれば、見直し・再検討も必要ではないか。



市立図書館おはなし室

(答) 教育長 19年度内に策定していきたい。ご指摘の事項についても、策定委員会等で様々なご意見が出てくるものと考えている。それらを踏まえて、図書整備等についても方向性を考えていきたい。
(問) 現状を踏まえ、努力義務に位置付けられている計画を無理して策定する意義は。
(答) 教育部長 理念を持ち、計画策定を契機に市民の気運の醸成を図っていきたい。予算についても、確保できるよう努力していく。

事務事業評価の改善を

(問) 評価制度導入の目的は、評価結果を次の施策や事業に反映

し、必要な改善を行い、市民満足度の向上を図ることにある。しかし、事務事業評価の事業数と予算事業数が違っているため、議案審査時のチェックが困難であった。有効活用できるように改善が必要では。
(答) 政策室長 事業数が違っている点は認識している。将来に向けては改善して、事業評価と予算事業とをリンクさせて、一体的に活用できるようにしていきたいと考えている。

フロリデーシヨンの 実現を

小山 順子

(問) 市長は3期目にあたり、「健康で人と地域が住みよいまちづくり」を目指すとの公約に掲げられている。また、施政方針の中で「市民の誰もが生涯にわたり安心して、健やかに自立した生活をおくるために、やさしさあふれる地域社会をつくっていくことも重要である」と述べている。市民が健康で自立した生活を送るためには、規則正しい食生活と口腔衛生いわゆる歯の健

康がとても重要であると考えているので、この歯の健康に世界的に実施されているフロリデーシヨンを吉川市に実現させ、乳幼児期の大切な時期に摂取して、高齢者になっても健康でいられるようなまちづくりを目指していただけないか市長の考えを伺いたい。
(答) 市長 水道水フロリデーシヨンは虫歯になりにくい状況で、有効性と安全性が実証されているが、実現に向けては市民の理解を得ることが大切であるので、市民に正しい情報提供をおこなうため、厚生労働省や歯科医師会等の協力を得ながら解決に向けて研究してまいります。

自転車や歩行者に安全な 歩車道の整備について

(問) 道路は市民の日常生活や産業の活動をささえている。子ども



歩車道 (なまずの里公園北側)

もや高齢者、交通弱者が安全で安心して通行できる、ゆとりある歩車道の整備が必要である。市長の考えは。
(答) 市長 ゆとりある歩車道の整備が必要であると認識し、都市計画道路、通学路を整備している。さらに区画整理事業においては、歩行者の通行に安全なまちづくりとしてひとつのテーマとして実地している。

交通安全対策

岡田 喬

(問) 県道川藤・野田線、東中学校入口に設置してある信号機を、市道鍋小路T字路に移設し、一般利用者と通学路の安全対策を。
(答) 市民生活部長 信号機の移設については、吉川警察署へ相談したところ、東側へ移設した場合、横断歩道の幅が確保できないこと、また歩行者や自転車が滞留する場所の確保ができないことから、移設は難しいとの見解をいただいております。歩行者や通学生徒の安全をさらに確保する観点から、横断歩道の設置や、市道と県道の交差点内に